

企業物流短期動向調査（日通総研短観） 調査結果（抜粋）

（2008年6月調査）

2008年7月

株式会社 日通総合研究所

ホームページはこちら

<http://www.nittsu-soken.co.jp>

目 次

I. 調査の内容.....	1
II. 調査の結果.....	3
1. 国内向け出荷量の動向	3
2. 輸送機関利用の動向	7
(1) 一般トラック	8
(2) 特別積合せトラック	9
(3) 宅配便	10
(4) 鉄道コンテナ	11
(5) 内航コンテナ	12
(6) 国内航空	13
3. 輸出入貨物量の動向	14
(1) 外貿コンテナ ー輸出ー	15
(2) 外貿コンテナ ー輸入ー	16
(3) 国際航空 ー輸出ー	17
(4) 国際航空 ー輸入ー	18
4. 在庫量と営業倉庫利用の動向	19
(1) 在庫量 ー原材料ー	20
(2) 在庫量 ー製品ー	21
(3) 営業倉庫保管量	22
5. 運賃・料金の動向	23
(1) 一般トラック運賃	24
(2) 特別積合せトラック運賃	25
(3) 鉄道コンテナ運賃	26
(4) 内航コンテナ運賃	27
(5) 国内航空運賃	28
(6) 営業倉庫保管料金	29
6. 物流コスト割合の動向	30

I. 調査の内容

目 的 : 本調査は、足もとの出荷状況等を各企業（事業所）の物流担当者に直接回答していただくことで、荷主企業の物流動向について業種横断的かつ包括的な情報を、データの形で迅速に公の場に提供することを目的として実施するものである。

方 法 : 本調査はアンケート方式により、四半期ベース（3月、6月、9月、12月の年4回）で実施する。

調査項目は次のとおりであり、当期実績見込みと次期見通しを対前年同期比「増加する」、「横ばい」、「減少する」もしくは「値上り」、「変わらない」、「値下り」等の3つの選択肢の中から選択回答する。

1. 国内向け出荷動向
2. 輸送機関別利用動向（一般トラック、特別積合せトラック、宅配便、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空）
3. 輸出入貨物の動向（外貿コンテナ、国際航空）
4. 在庫量（原材料、製品）と営業倉庫利用の動向
5. 運賃・料金の動向（一般トラック、特別積合せトラック、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空、営業倉庫保管）
6. 売上高に対する物流コスト割合の動向

集計は、調査項目ごとに各選択肢の回答事業所数を集計し、その合計事業所数に対する割合を算出、以下により動向判断指標^(*)とする。

$$\text{動向判断指標} = \left[\begin{array}{l} \text{「増加する（値上り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right] - \left[\begin{array}{l} \text{「減少する（値下り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right]$$

なお、この指標は荷動き等に対する各事業所の（定性的な）動向を集約するものであり、この結果がそのまま全体としての（定量的な）出荷量などの増減を意味するものではない。

(*) 動向判断指標：本調査では、調査項目に応じて『荷動き指数』、『運賃動向指数』等の名称を付している。

調査対象 : 製造業、卸売業の主要2,500事業所を対象とする。

－今回調査の回収・集計状況－

今回調査は、2008年4～6月の実績と2008年7～9月の見通しを6月中旬時点でうかがったものであり、1,079社からご協力をいただき、回答率は43.2%となった。

なお、業種別にみた調査対象企業数、回答企業数ならびに回答率は、次表のとおりである。

調査対象企業数と回答企業数

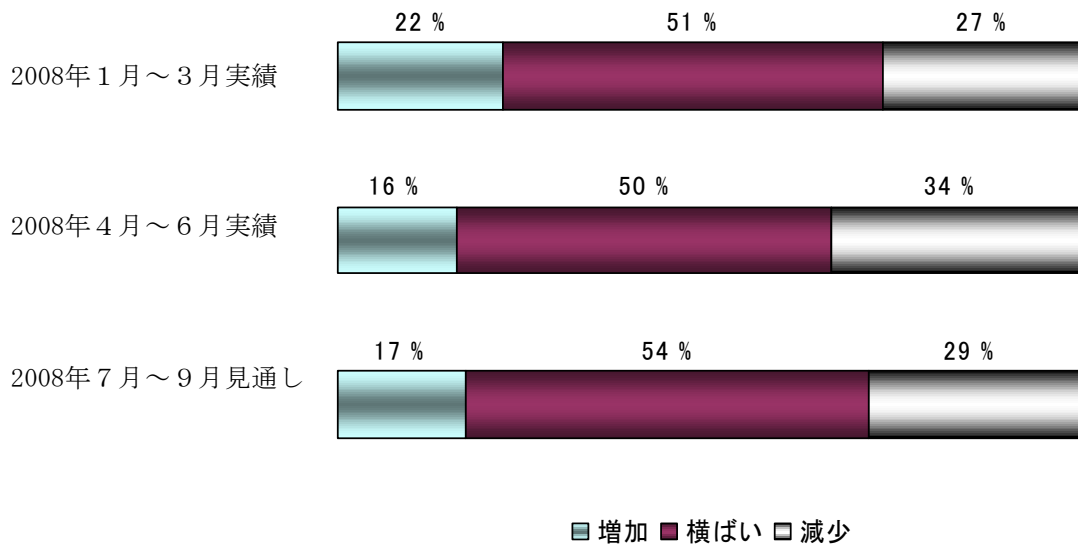
業 種		調査対象 企業数	回 答 企業数	回答率(%)
製 造 業	食 料 品 ・ 飲 料	232	101	43.5
	織 維 ・ 衣 服	111	47	42.3
	木 材 ・ 家 具	96	47	49.0
	パ ル プ ・ 紙	107	49	45.8
	化学・プラスチック	238	118	49.6
	窯 業 ・ 土 石	102	41	40.2
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	196	101	51.5
	金 属 製 品	128	56	43.8
	一 般 機 械	222	101	45.5
	電 気 機 械	333	137	41.1
	輸 送 用 機 械	250	91	36.4
	精 密 機 械	67	26	38.8
	そ の 他	167	59	35.3
	計	2,249	974	43.3
卸 売 業	生 産 財	124	52	41.9
	消 費 財	127	53	41.7
	計	251	105	41.8
合 計		2,500	1,079	43.2

Ⅱ. 調査の結果

－ 1. 国内向け出荷量の動向－

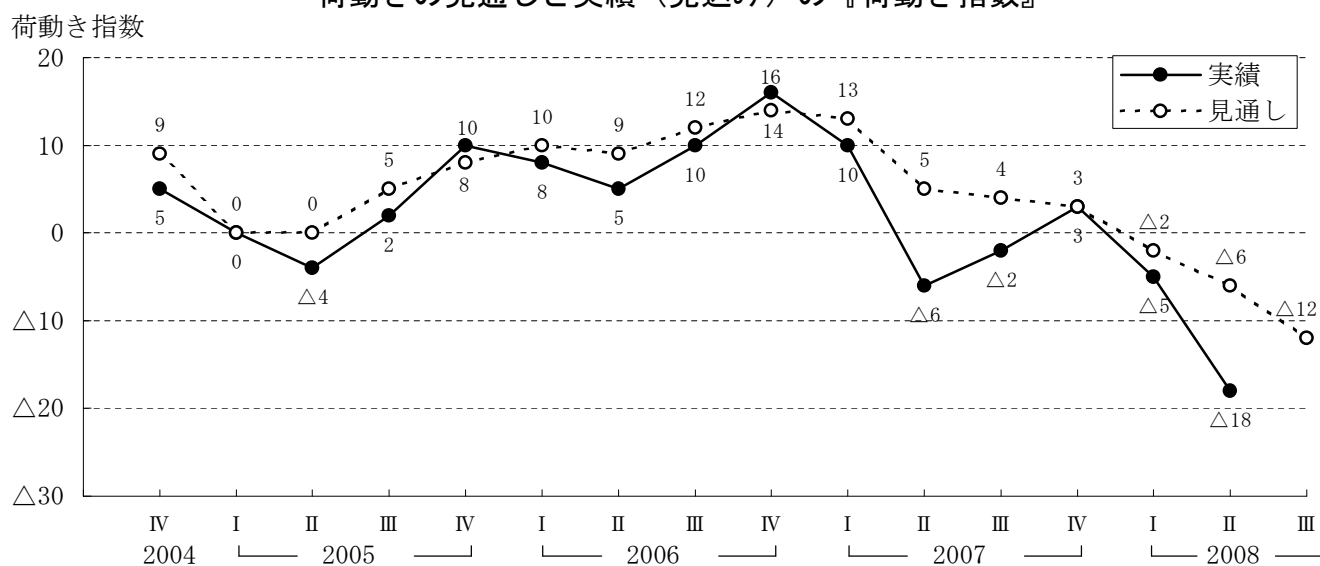
- 4～6月実績（見込み）における国内向け出荷量の動向をみると、前年同期比で「増加」との回答が前期（1～3月）実績より6ポイント低下し16%となった。一方、「減少」との回答は前期より7ポイント上昇し34%となり、この結果『荷動き指数』（＝「増加」の回答割合－「減少」の回答割合）は13ポイント低下して△18となった。
- 7～9月見通しの出荷量については、前年同期比で「増加」との回答が前期（4～6月）実績（見込み）からは強含み横ばいで17%となり、「減少」との回答は5ポイント低下し29%になる。この結果『荷動き指数』は前期より6ポイント上昇して△12と見込まれる。

国内向け出荷量の実績と見通し



■ 今回調査の『荷動き指数』を前回までの調査と比較すると、2007年10～12月実績で『荷動き指数』がいったんはプラスに反転したものの、2008年1～3月実績では再び水面下に沈み、2008年4～6月実績（見込み）ではマイナス幅がさらに拡大して△18まで落ち込んだ。2008年7～9月見通しでは『荷動き指数』の下げ止まりが見込まれるものの、引き続き2ケタのマイナスを示し、荷動きは減退基調が続く見通しである。

荷動きの見通しと実績（見込み）の『荷動き指数』



注) 点線は各期に入る前の時点の見通しにおける『荷動き指数』(2008年Ⅲ期の『荷動き指数』は今回調査時点の見通し)、実線は各期の途中の時点で判断した実績見込みの『荷動き指数』(2008年Ⅱ期の『荷動き指数』は今回調査における判断)。

■ 4～6月の業種別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、すべての業種がマイナスを示し、しかも輸送用機械を除く残り14業種が2ケタのマイナスとなった。業種全体の『荷動き指数』は△18で、前期（1～3月）実績からは13ポイントの低下となった。

■ 7～9月の『荷動き指数』見通しでは、輸送用機械がプラスに反転し、鉄鋼・非鉄でもマイナス幅が1ケタに縮小するが、残りの業種については依然として2ケタのマイナスを示す。この結果、業種全体の『荷動き指数』は△12と6ポイント上昇し、下げ止まりが期待されるものの、回復にはなお遠く、荷動きは引き続き減退の見通しである。

国内向け出荷量の実績と見通し（業種別）

業 種	2008年4月～6月実績					2008年7月～9月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	100	19	51	30	△11	100	15	59	26	△11	
繊維・衣服	45	18	49	33	△15	45	11	56	33	△22	
木材・家具	47	11	38	51	△40	46	20	50	30	△10	
パルプ・紙	48	17	52	31	△14	48	17	56	27	△10	
化学・プラスチック	116	14	54	32	△18	114	13	61	26	△13	
窯業・土石	40	12	58	30	△18	40	12	55	33	△21	
鉄鋼・非鉄	98	14	56	30	△16	97	18	56	26	△8	
金属製品	56	20	34	46	△26	56	23	43	34	△11	
一般機械	101	14	48	38	△24	101	14	49	37	△23	
電気機械	135	14	47	39	△25	135	18	52	30	△12	
輸送用機械	90	20	58	22	△2	90	30	50	20	10	
精密機械	25	12	52	36	△24	25	12	60	28	△16	
その他	59	13	58	29	△16	59	15	53	32	△17	
計	960	15	51	34	△19	956	17	54	29	△12	
卸売業	生産財	49	16	43	41	△25	48	8	57	35	△27
	消費財	53	17	55	28	△11	53	11	63	26	△15
	計	102	17	49	34	△17	101	10	59	31	△21
合計	1,062	16	50	34	△18	1,057	17	54	29	△12	

■ 4～6月の地域別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、すべての地域がマイナスを示し、北海道および中国が1ケタのマイナスにとどまる以外は、2ケタのマイナスとなった。とりわけ、北陸・信越、東海、関東で荷動きの減退圧力が大きい。

■ 7～9月の『荷動き指数』見通しでも、引き続きすべての地域がマイナスとなる。地域別には、北海道および中国では『荷動き指数』がさらに悪化し、荷動きの減退が続くとみられる。一方、東北、関東、東海などではマイナス幅の縮小が見込まれ、荷動きの減退圧力がやや緩和するものの、荷動きの回復には至らない。

国内向け出荷量の実績と見通し（地域別）

地 域	2008年4月～6月実績					2008年7月～9月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
北 海 道	47	19	53	28	△ 9	45	15	58	27	△ 12
東 北	91	15	51	34	△ 19	91	19	56	25	△ 6
関 東	266	15	48	37	△ 22	264	20	49	31	△ 11
北 陸 ・ 信 越	119	13	48	39	△ 26	119	15	51	34	△ 19
東 海	136	15	47	38	△ 23	136	16	55	29	△ 13
近 畿	158	15	53	32	△ 17	157	17	55	28	△ 11
中 国	95	19	56	25	△ 6	95	15	60	25	△ 10
四 国	67	13	54	33	△ 20	67	12	55	33	△ 21
九 州 ・ 沖 縄	83	18	53	29	△ 11	83	16	60	24	△ 8
合 計	1,062	16	50	34	△ 18	1,057	17	54	29	△ 12